

社会学部 社会共創学科

<p>（１）建学の精神教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる人として思いやりの精神をもって、社会とかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」及び「京都光華の学び」を置く。
<p>（２）リベラルアーツ教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や、多様性の理解、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目または選択科目を置く。 ・情報リテラシー、データ活用力、日本語活用力、外国語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目または選択科目を置く。 ・健康で豊かさに富む生活を送るために、日本の伝統的な文化と健康スポーツに関する必修科目または選択科目を置く。
<p>（３）専門教育（基礎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の課題と多様性や持続可能な社会等を学ぶ「基礎・基盤」科目群として、「社会共創」、「多様性と持続可能な社会」および「現代社会の理解」を理解するための講義科目を置く。 ・社会課題解決のための具体的な手法を学ぶ6つの「実践力育成」として、「ウェルネス」、「情報コミュニケーション」、「デザイン」、「プログラミング」、「社会調査・データ活用」、「キャリア開発・起業」に関する講義科目と演習科目を置く。 ・社会共創に関して学修した知識・技能・態度などを実際に活用し、社会や地域の課題を協働して解決して新たな価値を生み出す力を身につけるために、必修科目として「ゼミ・プロジェクト」を置く。
<p>（４）専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の創造についてより専門的に学ぶ3つの専門コース「地域共創」、「文化共創」、「スマート社会共創」について、それぞれに講義科目と演習科目を置く。 ・共生社会の創造に関する専門的な学びを基軸として、さらに、学生の将来の職業を見据えた資格の学びとなる「専門関連科目」を置く ・社会及び人と健康の関わりを学び、健康を維持・増進させるための技能を身につけるために、「ウェルネス副専攻プログラム（ヘルスケアコース、スポーツコース）」を置く。 ・4年間で学修した理論や知識と実践を統合させる「卒業研究」を置く
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL（Project-Based Learning／Problem-Based Learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。 ・学生の多様な学びを保証し、効果的な学びを実現するために、対面授業の他、オンライン授業を取り入れる。 ・教育の質、および学習効果の向上のため、質問駆動型授業（Question Formulation Technique）の導入、授業支援アプリなどの活用などに努める。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多角的な評価を行う。

<p>（１）建学の精神教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる人として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」及び「京都光華の学び」を置く。
<p>（２）リベラルアーツ教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や、多様性の理解、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目または選択科目を置く。 ・情報リテラシー、データ活用力、日本語活用力、外国語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目または選択科目を置く。 ・健康で豊かさに富む生活を送るために、日本の伝統的な文化と健康スポーツに関する必修科目または選択科目を置く。
<p>（３）専門教育（基礎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士としての専門基礎教育科目を置く。 ・人間や生活についての理解を深めるとともに、社会や環境と人間の健康の関わりについて理解するため科目を置く。 ・人体について体系的に理解した上で、主要疾患の成因、病態、診断、治療等について理解を深めるため講義科目と実験・実習科目を置く。 ・食品の各種成分を理解し、食品の加工・調理過程を通して栄養面や安全面への影響や評価について理解するための講義科目と実験・実習科目を置く。
<p>（４）専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養の意義ならびに、身体状況や栄養状況に応じた栄養管理の考え方を理解するための科目を置く。 ・健康・栄養状態・食行動・食環境に関する情報の収集と分析、それらを総合的に評価・判定し、栄養教育プログラムを作成する能力を修得するための科目を置く。 ・傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うための栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的マネジメントの考え方を理解するための科目を置く。 ・地域や職域の健康・栄養問題とそれを取り巻く諸要因を分析し、さまざまな健康・栄養状態の者に対する適切な栄養関連サービスのあり方について理解を深めるための科目を置く。 ・給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般についてマネジメントを行う能力を修得するための科目を置く。 ・各専門分野に関わる知識についてさらに理解を深め、実践活動の場での課題発見と解決を通して管理栄養士に必要とされる知識と技能の統合を図るための科目を置く。
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL（Project-Based Learning／Problem-Based Learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。 ・学生の多様な学びを保証し、効果的な学びを実現するために、対面授業の他、オンライン授業を取り入れる。 ・教育の質、および学習効果の向上のため、質問駆動型授業（Question Formulation Technique）の導入、授業支援アプリなどの活用などに努める。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多元的な評価を行う。

<p>（１）建学の精神教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる人として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」及び「京都光華の学び」を置く。
<p>（２）リベラルアーツ教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や、多様性の理解、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目または選択科目を置く。 ・情報リテラシー、データ活用力、日本語活用力、外国語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目または選択科目を置く。 ・健康で豊かさに富む生活を送るために、日本の伝統的な文化と健康スポーツに関する必修科目または選択科目を置く。
<p>（３）専門教育（基礎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養士としての専門基礎教育科目を置く。 ・社会や環境と健康の関わりについて理解するための科目を置く。 ・人体について体系的に理解した上で、運動や環境に対する人体の反応や適応について理解を深めるための講義科目と実験・実習科目を置く。 ・食品の特性を理解するとともに、衛生管理の方法について理解するための講義科目と実験・実習科目を置く。 ・運動やスポーツに関する基礎的知識や健康との関わりについて理解するための科目を置く。
<p>（４）専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の代謝と生理的意義を理解するとともに、身体状況や栄養状況に応じた栄養管理と各種疾患における基本的な食事療法を理解するための科目を置く。 ・個人・集団および地域レベルでの栄養指導の役割や栄養に関する各種統計について理解するための科目を置く。 ・給食業務を行うために必要な食事計画・調理を含めた給食サービスに関する技能を修得するための科目を置く。 ・健康を維持・増進するための運動指導の方法や競技力を高めるためのスポーツ指導の方法の基本を学び、プログラムの作成・実施・評価に関する技能を修得するための科目を置く。 ・スポーツと栄養との関わりについて学び、運動実施者や競技者に対する栄養管理について理解を深めるための科目を置く。 ・国内外の食文化やフードビジネスについて学び、「食」の創造やコーディネートに関する理解を深めるための科目を置く。 ・各専門分野に関わる知識の理解や興味を広げ、発展させるための科目を置く。
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL（Project-Based Learning/Problem-Based Learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。 ・学生の多様な学びを保証し、効果的な学びを実現するために、対面授業の他、オンライン授業を取り入れる。 ・教育の質、および学習効果の向上のため、質問駆動型授業（Question Formulation Technique）の導入、授業支援アプリなどの活用などに努める。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多元的な評価を行う。

<p>（１）建学の精神教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる人として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」及び「京都光華の学び」を置く。
<p>（２）リベラルアーツ教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や、多様性の理解、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目または選択科目を置く。 ・情報リテラシー、データ活用力、日本語活用力、外国語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目または選択科目を置く。 ・健康で豊かさに富む生活を送るために、日本の伝統的な文化と健康スポーツに関する必修科目または選択科目を置く。
<p>（３）専門教育（基礎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理学への関心を喚起するため、心理学の各分野の導入科目を配置する。
<p>（４）専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の心理と行動に関する法則性を客観的に理解するために、基礎心理学に関する科目を置く。 ・心理的支援に必要な知識や技能の基礎を身に付け、実践力を培うために、心理援助に関する科目を置く。 ・科学的手法を用いて心理に関する情報を収集・分析する力を身に付けるために、データ科学に関する科目を置く。 ・人と人、人と環境との相互作用及び、個人差・文化差といった多様性について理解するために、人間関係・現代社会に関わる科目を置く。 ・健康に関わる多様な専門領域の知識を身に付けるために、健康科学に関する科目を置く。 ・心理学に関する問題発見・解決能力を身に付けるために、心理学演習科目を置く。
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL（Project-Based Learning／Problem-Based Learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。 ・学生の多様な学びを保証し、効果的な学びを実現するために、対面授業の他、オンライン授業を取り入れる。 ・教育の質、および学習効果の向上のため、質問駆動型授業（Question Formulation Technique）の導入、授業支援アプリなどの活用などに努める。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多元的な評価を行う。

京都光華大学 カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

看護福祉リハビリテーション学部 看護学科

（１）建学の精神教育
<ul style="list-style-type: none">・現代社会に生きる人として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」及び「京都光華の学び」を置く。
（２）リベラルアーツ教育
<ul style="list-style-type: none">・健全な市民性の涵養や、多様性の理解、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目または選択科目を置く。・情報リテラシー、データ活用力、日本語活用力、外国語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目または選択科目を置く。・健康で豊かさに富む生活を送るために、日本の伝統的な文化と健康スポーツに関する必修科目または選択科目を置く。
（３）専門教育（基礎）
<ul style="list-style-type: none">・看護の対象である人間のからだところを理解する科目を配置する。・人間と社会の関連を理解し、人々の健康や生活支援を理解する科目を配置する。・仏教精神を基盤に、高い倫理観を持って対象となる人を尊重し、その人々の権利を守る姿勢を養う科目を配置する。
（４）専門教育
<ul style="list-style-type: none">・対象となる人を全人的に理解するための看護の基盤となる科目を配置する。・看護専門職に求められる基本的な資質や能力を獲得するための科目を配置する。・あらゆる場で看護が提供できるよう、健康段階や発達課題に応じた看護が実践できる能力を身につけるための科目を配置する・対象がおかれた状況や環境に応じて、対象を中心としたチーム連携のあり方を身につける科目を配置する・より良い看護ケアを提供するために、看護を探究し続ける能力を養うための科目を配置する。
カリキュラムの実施方針
<ul style="list-style-type: none">・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL（Project-Based Learning/Problem-Based Learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。・学生の多様な学びを保証し、効果的な学びを実現するために、対面授業の他、オンライン授業を取り入れる。・教育の質、および学習効果の向上のため、質問駆動型授業（Question Formulation Technique）の導入、授業支援アプリなどの活用などに努める。・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多角的な評価を行う。

京都光華大学 カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

看護福祉リハビリテーション学部 福祉リハビリテーション学科 社会福祉専攻

（１）建学の精神教育

- ・現代社会に生きる人として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」及び「京都光華の学び」を置く。

（２）リベラルアーツ教育

- ・健全な市民性の涵養や、多様性の理解、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目または選択科目を置く。
- ・情報リテラシー、データ活用力、日本語活用力、外国語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目または選択科目を置く。
- ・健康で豊かさに富む生活を送るために、日本の伝統的な文化と健康スポーツに関する必修科目または選択科目を置く。

（３）専門教育（基礎）

- ・社会福祉専門分野を学ぶための基礎的な科目として、人間と社会、医療と福祉の関係を理解するために必要な科目群を置く。
- ・人と社会との関係性を学び、社会生活を営む中で発生する様々な課題を理解するために必要な科目群を置く。
- ・医療と福祉のそれぞれの専門性の基礎を学び、それらの連携をふまえてどのように課題解決に取り組むかを理解するために必要な科目群を置く。

（４）専門教育

- ・社会福祉領域と精神保健福祉領域の基礎を学ぶために必要な科目群を置く。
- ・基礎知識をもとにして、社会福祉及び精神保健福祉の各領域の専門的知識を学ぶために必要な科目群を置く。
- ・上記で学んだ知識を、当事者やその環境に働きかけ課題を解決するための実践を学ぶために必要な演習科目群を置く。
- ・実習の準備や実施のための科目群を置く。

カリキュラムの実施方針

- ・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL（Project-Based Learning／Problem-Based Learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。
- ・学生の多様な学びを保証し、効果的な学びを実現するために、対面授業の他、オンライン授業を取り入れる。
- ・教育の質、および学習効果の向上のため、質問駆動型授業（Question Formulation Technique）の導入、授業支援アプリなどの活用などに努める。
- ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多角的な評価を行う。

京都光華大学 カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

看護福祉リハビリテーション学部 福祉リハビリテーション学科 言語聴覚専攻

（１）建学の精神教育

- ・現代社会に生きる人として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」及び「京都光華の学び」を置く。

（２）リベラルアーツ教育

- ・健全な市民性の涵養や、多様性の理解、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目または選択科目を置く。
- ・情報リテラシー、データ活用力、日本語活用力、外国語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目または選択科目を置く。
- ・健康で豊かさに富む生活を送るために、日本の伝統的な文化と健康スポーツに関する必修科目または選択科目を置く。

（３）専門教育（基礎）

- ・言語聴覚障害学の専門教育の導入として、人間をトータルに理解するために必要な科目群を置く。
- ・人間として心身ともに健康な暮らしについて、個人および集団の視点を踏まえて、統合的に人間を捉えられることを目指すために必要な科目群を置く。
- ・社会保障制度や法規を学び、医療が社会とどのように繋がっているのかを学ぶことを目指すために必要な科目群を置く。

（４）専門教育

- ・臨床医学と言語聴覚障害学の基礎を学ぶために必要な科目群を置く。
- ・基礎知識をもとにして、言語聴覚障害の各領域の専門的知識を学ぶために必要な科目群を置く。
- ・上記で学んだ知識を、対象者の評価や治療において実際に運用することを学ぶために必要な演習科目群を置く。
- ・実習の準備や実施のための科目群を置く。

カリキュラムの実施方針

- ・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL（Project-Based Learning／Problem-Based Learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。
- ・学生の多様な学びを保証し、効果的な学びを実現するために、対面授業の他、オンライン授業を取り入れる。
- ・教育の質、および学習効果の向上のため、質問駆動型授業（Question Formulation Technique）の導入、授業支援アプリなどの活用などに努める。
- ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多元的な評価を行う。

<p>（１）建学の精神教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる人として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」及び「京都光華の学び」を置く。
<p>（２）リベラルアーツ教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や、多様性の理解、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目または選択科目を置く。 ・情報リテラシー、データ活用力、日本語活用力、外国語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目または選択科目を置く。 ・健康で豊かさに富む生活を送るために、日本の伝統的な文化と健康スポーツに関する必修科目または選択科目を置く。
<p>（３）専門教育（基礎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士専門教育の導入として、人間をトータルに理解するために必要な科目群を置く。 ・人間として心身ともに健康な暮らしについて、個人および集団の視点を踏まえて、統合的に人間を捉えられることを目指すために必要な科目群を置く。 ・社会保障制度や法規を学び、医療が社会とどのように繋がっているのかを学ぶことを目指すために必要な科目群を置く。
<p>（４）専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床医学と作業療法士専門分野の基礎を学ぶために必要な科目群を置く。 ・基礎知識をもとにして、身体障害領域、老年期障害領域、精神障害領域、発達障害領域の各領域の専門的知識を学ぶために必要な科目群を置く。 ・上記で学んだ知識を、対象者の評価や治療において実際に運用することを学ぶために必要な演習科目群を置く。 ・実習の準備や実施のための科目群を置く。
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL（Project-Based Learning／Problem-Based Learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。 ・学生の多様な学びを保証し、効果的な学びを実現するために、対面授業の他、オンライン授業を取り入れる。 ・教育の質、および学習効果の向上のため、質問駆動型授業（Question Formulation Technique）の導入、授業支援アプリなどの活用などに努める。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多元的な評価を行う。

<p>（１）建学の精神教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる人として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」及び「京都光華の学び」を置く。
<p>（２）リベラルアーツ教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や、多様性の理解、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目または選択科目を置く。 ・情報リテラシー、データ活用力、日本語活用力、外国語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目または選択科目を置く。 ・健康で豊かさに富む生活を送るために、日本の伝統的な文化と健康スポーツに関する必修科目または選択科目を置く。
<p>（３）専門教育（基礎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの発達段階や個性を理解し適切な支援をなすうるために、教育・保育や子どもの発達に関する基礎理論を学ぶための科目を置く。 ・子どもの興味・関心をふまえた授業や保育を計画し実践できるよう、各教科や保育内容各領域の基礎を学ぶための科目を置く。
<p>（４）専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員・保育者としてより主体的・創造的に教育・保育をなすうるよう、教育・保育の発展的な理論を学ぶための科目を置く。 ・子どもの視野を広げ、活動を通じての学びを促進することができるよう、各教科や保育内容各領域の指導法を学ぶための科目を置く。 ・ICT機器を活用した効果的な指導法を学ぶための科目を置く。 ・現代的な教育・保育の諸課題に対応するための科目を置く。 ・学習成果を統合し、問題解決に適用することを学ぶための科目を置く。 ・教育・保育実習の準備や実施のための科目を置く。
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL（Project-Based Learning／Problem-Based Learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。 ・学生の多様な学びを保証し、効果的な学びを実現するために、対面授業の他、オンライン授業を取り入れる。 ・教育の質、および学習効果の向上のため、質問駆動型授業（Question Formulation Technique）の導入、授業支援アプリなどの活用などに努める。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多元的な評価を行う。

人間健康学群

<p>（１）建学の精神教育</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる人として思いやりの精神をもって、社会とかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」及び「京都光華の学び」を置く。
<p>（２）リベラルアーツ教育</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や、多様性の理解、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目または選択科目を置く。 ・情報リテラシー、データ活用力、日本語活用力、外国語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目または選択科目を置く。 ・健康で豊かさに富む生活を送るために、日本の伝統的な文化と健康スポーツに関する必修科目または選択科目を置く。
<p>（３）専門教育（基礎）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・社会及び人と健康の関わりについて理解するために健康管理・福祉・心理・食生活の概論を置く。 ・健康情報の取り扱いに関わる情報処理・統計の科目を置く。
<p>（４）専門教育</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・身体的・精神的・社会的側面からのアプローチを通して健康問題を考えるために、「福祉と政策」、「人と心理」、「食べ物と栄養」分野に関わる科目群を置く。 ・各領域の知識の統合を図るために演習の科目を置く。 ・自己のキャリア形成、資格の取得を通して就業力を高めるために、「関連科目」ならびに「自由科目」の科目群を置く。
<p>カリキュラムの実施方針</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、P B L（Project-Based Learning／Problem-Based Learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。 ・学生の多様な学びを保証し、効果的な学びを実現するために、対面授業の他、オンライン授業を取り入れる。 ・教育の質、および学習効果の向上のため、質問駆動型授業（Question Formulation Technique）の導入、授業支援アプリなどの活用などに努める。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多元的な評価を行う。